

放射線関連量の課題に関する検討委員会（臨時委員会）第1回委員会 議事録

日時：2024年5月28日（火）10：00～11：00

場所：オンライン

参加者：委員長 小田啓二（電子科学研究所）
副委員長 佐々木道也（電力中央研究所）
幹事 山田崇裕（近畿大学）
委員 岩井 敏（元原安進）
委員 黒澤忠弘（産業技術総合研究所）
委員 高木俊治（三菱総合研究所）
委員 小口靖弘（千代田テクノル）
委員 高橋史明（日本原子力研究開発機構）

配布資料：

資料1 「放射線関連量の課題に関する検討委員会」第1回会合メモ

議事概要

1. 挨拶&委員会活動の概要の説明（委員長）

小田委員長より、本委員会の活動目的等について資料1に基づき説明があった。

（岩井委員）規制側だけが決めたわけではなく、ICRPが決めたことに関する調査も含めるのか？

→（小田委員長）範囲に含めたい。

（岩井委員）ICRU95の新実用量は成人ファントムの実効線量に基づくものであるため、幼児や小児の実効線量は新実用量よりも大きくなる。新実用量への適用には検討が必要となるので、これも議論したい。

2. 自己紹介及び情報提供等

各委員が自己紹介を行い、以下の情報提供があった。

（黒澤委員）新しい実効線量に関する受託研究を規制庁から受けていた。今後も規制庁として取り組む意向のようであるが、学会を窓口として情報共有すべきかなど模索中。この場でも相談したい。

→（小田委員長）規制庁の委託については、早目の対応であるとの印象をもっていた。規制庁が独自にテーマを決めることを待つのではなく、我々が助言できるように検討を進めることが望ましい。

（高橋委員）興味とやらなければいけないこととの整理が必要。

→（小田委員長）特に、法体系への導入に関する課題について、規制庁とのリエゾンの立場

で協力をお願いしたい。

(小口委員) IAEA は新しい実用量取入れに関する影響に関する TECDOC を 2025 年 9 月出版すべく検討している。2024/10/21-23 にはこの TECDOC 開発に関する技術者会合が予定され、Report95 に関連したステークホルダーが対象。一般発表も受け付けられ、採択されれば旅費滞在費を IAEA から支給される。本委員会からの発表もあってよいのではないか。

(小田委員長) 通例 EURADOS が先行しているが今回はどうか？

→ (小口委員) EURADOS は取入れ影響に関するレポートを 2 年前に出しているが、線量測定にフォーカスしたものである。今回の IAEA のレポートは取入れに関する課題全体を抽出するものを目指している。

3. 今後の進め方について

・サブテーマごとに検討をそれぞれ進める。サブテーマの会合については、委員会メンバー全員に開催案内を出し、サブテーマメンバー以外でも参加できるようにする。

・議論の状況を見つつ、今後追加メンバーとして元アロカ(現:原安協)松原昌平氏に参画いただくことを検討中。医療系については次年度以降に参画してもらう。

・若手研から委員会への参画者を募る(2, 3名)。佐々木委員が若手研に打診することとした。希望者がなければ委員からの推薦を受ける。参画者がいない場合には、シンポジウムに参加してもらうよう働きかける。

4. その他

・(佐々木副委員長) 本委員会の予算は主に旅費等に充てられる。

・(岩井委員) これまでの専門委員会では、各委員の持ち出しが多い。本委員会でも調査等に費用が掛かる恐れがあり、必要な経費は個人の持ち出しではなく委員会予算から支出するのがよい。

・(佐々木副委員長) この委員会で資料を相互に共有する場所を構築したい。各機関によるアクセス制限等も想定されるため、候補について別途連絡する。

・次回委員会は、各グループの進み具合を勘案し、8月末~9月の1週目あたりで調整する。開催場所は大阪を第一候補とし、対面で実施する。

以上